

がん教育 桜井なおみさん 講演会

平成 29 年 2 月 2 日（木）、福祉系列 2 年生と 1 年生を対象としたがん教育が行われました。

講師は、キャンサーソリューションズ代表 桜井 なおみ さん。



(photo by Yahata Hiroshi)

CANSOL HP より

桜井さんは 30 歳代の時に乳ガンを発症。その経験を生かして現在は、がんに関わる社会的課題を啓発し、がんの患者さん寄り添う活動を行っている方です。

桜井さんと一緒に、CANSOL の高橋さん、市民病院のドクター、看護師さんも来校してくださいました。

1・2限は福祉系列 2 年生を対象とした講義を実施していただきました。



がんについて説明していただいた後に、がんの化学療法の副作用である「手のしびれ」を体験するワークショップを行いました。

軍手の上にビニール手袋をして、いろいろな作業にチャレンジしました。



手が自由に使えないことで、できないこと、何とかできること、を体感しました。そして、それらの不自由を解決する方法を各グループで考えて発表。最後に、市民病院の看護師さんから、できないことは「助けて」と言う、患者さんが「助けて」と言いやすいようにする、というアイデアを教えてください、とても勉強になりました。

3・4時間目は、1年生の「産業社会と人間」の時間です。



がんについて

- 1 がんにならないためにできること
- 2 がんになったときにできること
- 3 がんになった人の為にできること

を考えました。

がんになって不自由があれば、それは本人の問題ではなく、社会の中に問題があるのではないかと、という社会モデルの考え方も学ぶことができました。このことは、「がん」だけでなく、障害を持った方など、生活に何らかの不自由を感じている方にも当てはまることだと知りました。